

特集 市長と話し合う会

貴重なご意見 未来の茂原に活かします！

「市長と話し合う会」が、昨年の11月19日、市役所市民室で開催され、参加した計55人のうち18人から19件の貴重なご意見・ご提言がありました。



今号では、「市長と話し合う会」で出された主な意見を抜粋した内容を特集しました。今回は、開催方法をリニューアルし、2つのテーマを設けて市側の説明の後、意見交換を行いました。

テーマ1

子育て支援について

近年の待機児童の増加について

Q 0歳から14歳の年少人口の減少が続いているのは理解できるが、平成28、29年の待機児童が増加している。そのギャップを説明してほしい。

A 平成27年度に子ども・子育て支援新制度に移行了ことで、保育所の利用要件が大きく緩和されました。新制度では、保育を利用するための要件にパートや求職中の方も新たに加えられました。また、育児休業中の継続利用についても、保育の必要があると認められる場合は、利用できることに改善さ

れました。このように、保育所を利用できる対象者が拡大したことが待機児童増加の一番の要因であると考えております。

さらに、手厚い保育士配置が求められている0～2歳児を預ける方が増えたことも、待機児童が増加している要因の一つであると考えております。



▲保育所の様子

児童の貧困の現状把握と対策について

Q 貧困家庭児童をどうやって把握し、どのような対策を行っているのか。

A 要保護、準要保護のご家庭に対して就学援助を行っております。要保護につ

いては、社会福祉課が担当となっておりますが、準要保護については、学校教育課が担当しておりますので、申請していただき、一定の所得のご家庭に対して、援助を行っております。

現在、小学校で298人、中学校で170人の児童生徒が対象となっており、本年度、小学校で約2,300万円、中学校で約2千万円の補助を予定しております。

また、生涯学習課では、学習面において塾に通っていない中学3年生を対象に、本年度より試行的に数学と英語の補充学習を始めたところです。

保育所と幼稚園の整備計画について

Q 女性の社会進出、幼児教育・保育の無償化などの話がある中、待機児童ゼロを目指していく観点からも、柔軟に計画の見直し等を考えていただきたい。

A 市では、中長期的な視立幼稚園を一体的に捉え、施設の安全・安心を確保しつ